

1 交通政策ミーティングの開催(計 3回開催)

「第1回交通・物流連携会議」での議論を受け、コロナ禍による影響や人口減少、燃油価格の高騰など、交通・物流を取り巻く環境が厳しさを増す中、交通・物流の事業者や関係団体における現況や課題等を把握するとともに、課題への対応等について意見交換を行うため「交通政策ミーティング」を開催した。

(1) 参加メンバー

鉄道・バス・タクシー関係	JR北海道、北海道拓殖バス、函館バス、網走バス、昭和交通
航空関係	JAL、ANA、AIRDO、北海道エアポート
物流関係	道トラック協会、JR貨物、道通運業連盟、道通運業連合会
経済関連団体	道経済連合会、道商工会議所連合会、道観光振興機構

(2) 開催結果

第1回 ミーティング (R5.9.20~26)	第2回 ミーティング (R5.10.16)	第3回 ミーティング (R5.10.20)
3つの交通分野に区分、各交通事業者や関係機関から現状や課題など意見聴取	現状・課題等を踏まえ、道や関係者が連携しながら今後の対応について検討	第2回ミーティングでの意見を踏まえ、指針の推進に向けて具体的な取組を整理

(3) 検討内容

「人員不足・確保」、「事業者間で連携した取組」、「次世代交通システム等の導入」の3つの視点から、各交通事業者や関係者と連携した取組、方向性等について事例等を参考に検討・協議を行った。

検討テーマ	課題等
人員不足・確保	人口減少・高齢化により人員不足への対応が喫緊の課題。今後、交通業界の魅力発信や、DXの活用による業務効率化に向けた取組が必要
事業者間連携などの取組	労働力不足の中、輸送モード間での連携を強化し、利便性向上や運輸事業者の業務の効率化に向けた取組が必要
次世代交通システム導入への取組	ゼロカーボン北海道の実現に向けて、広域分散型の本道にとって、積雪寒冷地等の地理的条件等を踏まえた、環境配慮型バスの導入などについて検討を進める。

2 交通政策ミーティングでの検討結果(取組の方向性)

テーマ1. 人員不足・確保への取組

☑人材の確保・育成

バス・トラック等運転手や空港でのグラハンなどの人員確保に向け、合同採用説明会や学校訪問、採用実務者等を対象とした講習会のほか、若手・女性などへ魅力ある職場としてのPR、移住、UIターン、免許取得支援などあらゆる手法での取組を進める。

☑デジタル技術を活用した業務効率化による人員不足への対応

キャッシュレス決済や遠隔点呼によるデジタル技術を活用した業務の効率化など、これまで要していた人工の削減や人員不足への対応と経営の強化を図る。

☑ドライバーの労働環境の改善

トラック事業者と荷主が連携し、共同輸送や中継輸送など物流の効率化を図るほか、トラック運転手不足の背景にある低賃金、長時間労働といった労働環境の改善を促進する。

テーマ2. 事業者間連携などの取組

☑デジタルサービスとシームレス交通とを連動させた取組の推進

チケットのデジタル化などMaaS等と連動し、飛行機や鉄道など様々移動手段をスムーズにつなぐシームレス交通など、事業者連携により一層効果が得られるような取組を進める。

☑地方空港からの2次交通の充実

地方空港から観光地などへスムーズに移動ができるよう2次交通の充実・確保に向けた取組を促進する。

☑貨客混載などの取組を促進

貨客混載や宅配タクシー等、人とモノを同時に運ぶ仕組みづくりに向け、多様な交通モード事業者が連携し、移動と輸送の一体的・効率的な取組を促進する。

☑物流の効率化に向けた取組

複数事業者間の連携・協働により、トラック輸送から鉄道輸送へ転換するモーダルシフトをはじめ、トラック輸送の共同化などによる積載率の向上など効率化を図る。

☑雪害に関する情報共有・発信の強化

新千歳空港と札幌間の雪害対策について、交通事業者や道路管理者、行政機関等が連携し、情報共有・発信の強化など対応スキームを構築する。

テーマ3. 次世代交通システム導入に向けた取組

☑脱炭素化に向けた取組

積雪寒冷・広域分散等本道の地域特性を考慮しながら、脱炭素化に向け、電気・燃料電池自動車など次世代自動車への導入促進について検討を進める。